

## ● 学会発表の内容

### 当院での人工授精（AIH）初回実施者のその後の帰結に関する検討

医療法人社団 徐クリニックARTセンター  
伊藤真理 清須知栄子 中塚愛 徐東舜

#### ■ 【目的】

当院不妊外来でAIHを開始した患者がその後、どのような帰結に至っているかを後方視的に検討した。

#### ■ 【対象】

2010年から2012年に人工授精（AIH）を初めて実施した571症例のうち、AIHを4回以上行ったか、あるいはAIH途中でIVFへステップアップした473症例を研究の対象とする。それ以外の治療中断した98症例はドロップアウトと定義した。AIH初回実施時の平均年齢は34.7±4.3歳、平均不妊期間は30±26ヶ月であった。

#### ■ 【分析方法】

対象を年齢別で6群（～29歳：72例、30歳～34歳：202例、35歳～37歳：151例、38歳～39歳：70例、40歳～42歳：56例、43歳～：20例）に分類し、比較検討した。

#### ■ 【結果】

全体の出生率は72.1%（341/473）、ドロップアウト率は17.2%（98/571）であった。

出生の治療別での内訳はAIH：50.7%（173/341）、タイミング：5.3%（18/341）、体外受精：44.0%（150/341）であった。

年齢別での出生率は、～29歳：84.5%（49/58）、30歳～34歳：82.4%（145/176）、35歳～37歳：76.2%（99/130）、38歳～39歳：58.1%（36/62）、40歳～42歳：34.3%（12/35）、43歳～：0.0%（0/12）であった。

出生に至った治療の内訳（AIH、タイミング、体外受精）は、～29歳：49.0%、8.1%、42.9%、30歳～34歳：49.0%、4.1%、46.9%、35歳～37歳：57.6%、4.0%、38.4%、38歳～39歳：50.0%、5.6%、44.4%、40歳～42歳：25.0%、16.7%、58.3%であった。

ドロップアウト率は、～29歳：19.4%（14/72）、30歳～34歳：12.9%（26/202）、35歳～37歳：13.9%（21/151）、38歳～39歳：11.4%（8/70）、40歳～42歳：37.5%（21/56）、43歳～：40.0%（8/20）であった。

#### ■ 【結語】

①出生率は35歳未満では高く、35歳以上では年齢とともに低下する傾向にあり、38歳以上ではその傾向は著明であった。

②出生に至る治療ではAIH及び体外受精はほぼ1:1であり、40歳以上では体外受精が優位であった。

③ドロップアウト率は20歳代及び40歳代で高く、30歳代では低かった。